

経営比較分析表（平成30年度決算）

兵庫県 養父市

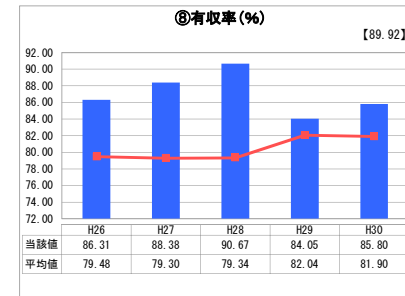
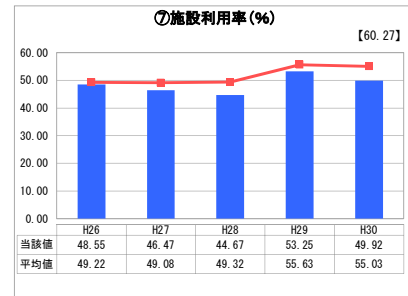
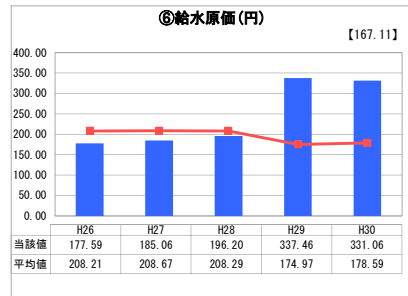
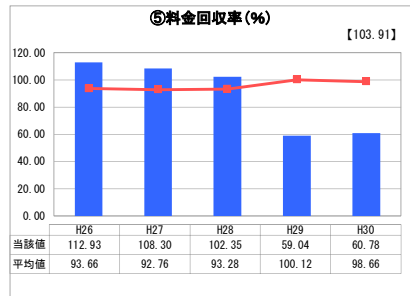
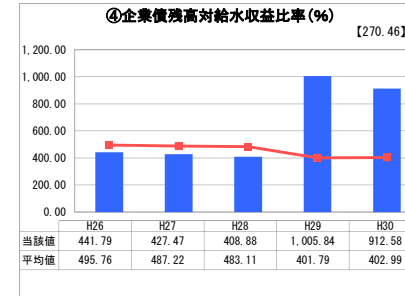
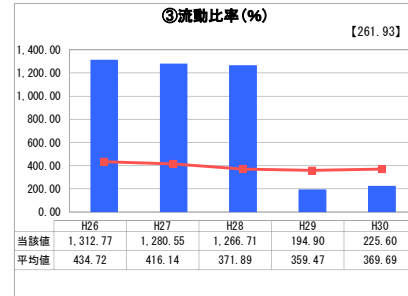
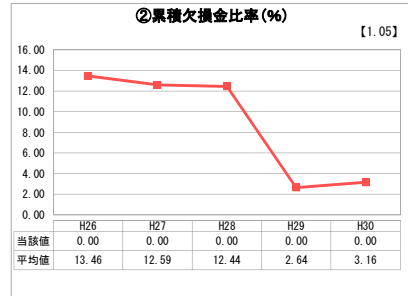
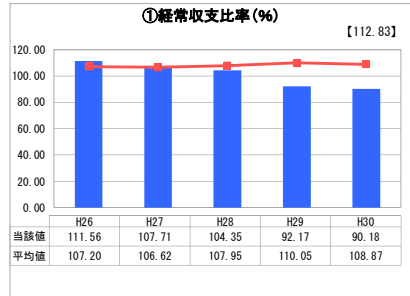
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	58.49	99.98	3,630	

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
23,723	422.91	56.09
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
23,505	165.00	142.45

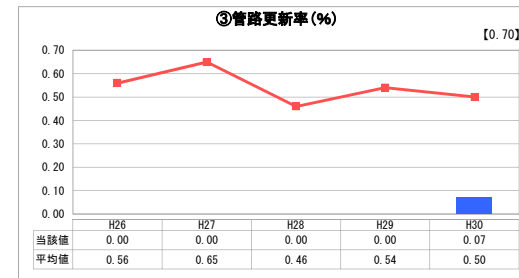
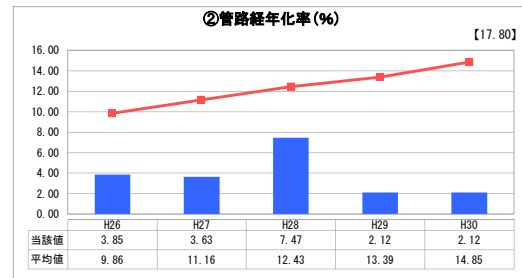
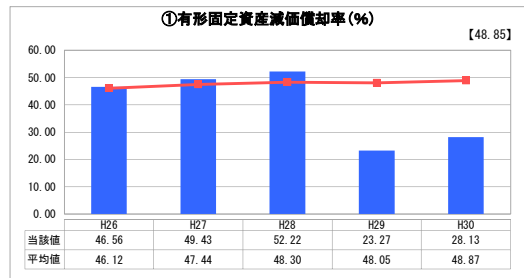
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

【経常損益】
 経常収支比率については、昨年度に引き続き、単年度収支が赤字となったため100.0を切っている。単年度収支が赤字となるのは減価償却費によるところが主な要因であり、これを含む経費を料金や他会計補助金で賄っていない状況である。

【債務残高】
 養父市の地理上多くの施設が点在しており、それらを整備するため多くの企業債を発行してきた。それが企業債残高対給水収益比率に表れている。そのため、繰上償還を実施し残高を減らす努力を行っているところである。

【料金水準の適切性】
 料金回収率については、類似団体と比較して低い水準にある。これは、現在の料金のみで維持管理費を捻出できていないことを表し、一般会計からの補助金に運営経費を頼っている状況である。今後はコストダウンを図るとともに料金の適正化を検討する必要がある。

【費用の効率性】
 給水原価は類似団体と比較して非常に高い水準にある。これは、これまで整備してきた施設の減価償却費が主な原因である。減価償却費は今後少なくなる見込みであるが、それ以外の経費においてもできる限り削減できるような経営努力を行う。

2. 老朽化の状況について

【施設全体の減価償却の状況】
 平成29年度に簡易水道を統合した際、旧簡易水道関連の償却対象資産の帳簿原価を減価償却後の数値とした。そのため減価償却率は実際の状況とは相違がある。施設の実際の状況を把握し、必要な長寿命化を図っていく。

【管路の経年化の状況】
 管路についても旧簡易水道分の布設率が不正確な部分があるため、正確な経年化率とは相違がある。実際の状況を把握し、計画的な更新を行っていく。

全体総括

平成29年に旧簡易水道事業を統合しあらゆる財務指標が悪化した。平成30年度においてもその状況が続いている。また今後給水人口の減少や更新需要の増加などによりさらに経営を圧迫されることは予想され、維持管理コストの削減や歳入の確保についての検討が必須である。特に更新需要については避けて通ることができない案件であるため、現在の管路を含めた施設の状況を把握し、更新計画を立てて計画的に行う必要がある。